

16年に施設就労支援センターとして開設されたが、利用者が事業所と

の年からの生活リズムに取っ組みし、月時給で約15万の000人との通年給与を多くと

一枚一枚手作りで作っています。加工は入れの場所を間違えたり、加工の順番が違ったりと、作業員が求められず、味

点字名刺プロジェクトは、顧客からの名刺を作業所に送ってもらい、その名刺に視覚障がい者が点字を刻印するサービスで、1

現場を歩く

ココロスキップ(埼玉県越谷市)

視覚に障がいのある人たちが、一つ一つ丁寧に点字を刻む「点字名刺プロジェクト」。「ラジオ深夜便」(NHKラジオ)をはじめ、メディア露出も多い。「ラジオとの関わりが深い」現場だと聞き、埼玉県越谷市の福祉作業所「ココロスキップ」の大政マミ施設長を訪ねた。

点字名刺は、やさしい社会のパスポート

案内してくれた人



ココロスキップ 施設長 大政 マミ
おおまさ・まみ / 26歳で会社を設立し、26歳で点字名刺プロジェクトを立ち上げる。点字が普及することで、障がい者に対する理解が深まり、やさしい社会の実現につながることを目指している。

2台の専用機器を使い、手際よく点字の打ち込みをする視覚障がい者の姿があった。そこから差し込む光が柔らかな。2022年11月18日午後1時半。作業はペーパーで行うのが基本だ。顧客からの預かった名刺を機器の枠内に丁寧にセットし、レバーを引く。打ち込まれた点字を別の利用者や職員が確認してチェックしている。



点字を刻印する佐伯さん(右)と、検品を担当する大政さん。親子ほど離れたペアだが、作業の息はぴったりだ。

兄弟2人で始めた福祉作業所です。元々、叔父が交通制で脳に大きな損傷を受けた。叔父が交通制で脳に大きな損傷を受けた。叔父が交通制で脳に大きな損傷を受けた。

受け、障がい者になりました。私が中学生の頃、障がい者になりました。私が中学生の頃、障がい者になりました。

点字名刺ができるまで

専用の機械に1cmほどの小さなピンを1文字ずつ並べてセット → 名刺の大きさや厚さに合わせて微調整しプレス

私たちが分が分るので、点字名刺を作りますが、私が作成した点字名刺は先ほどの佐伯さんたちが一生懸命、みんな力を合わせて作った点字名刺を比べた時、その価値

「点字名刺プロジェクト」は、従来の点字名刺とは異なり、点字名刺の右上を丸くカットすることで、名刺の上下が判別できるようになっている



大政さんの名刺。視覚障がい者に配慮し、点字名刺の右上を丸くカットすることで、名刺の上下が判別できるようになっている

発送までにチェックは3~4回

